SONY®

4-287-655-**03**(1)

マイクロハイファイ
コンポーネントシステム

取扱説明書

お買い上げいただきありがとうございます。

⚠警告　電気製品は安全のための注意事項を守らないと、火災や人身事故になることがあります。

この取扱説明書には、事故を防ぐための重要な注意事項と製品の取り扱いかたを示しています。**この取扱説明書をよくお読みのうえ、製品を安全にお使いください。**お読みになったあとは、いつでも見られるところに必ず保管してください。

CMT-S10

⚠警告 安全のために

ソニー製品は安全に充分配慮して設計されています。しかし、電気製品は間違った使いかたをすると、火災や感電などにより人身事故につながることがあり危険です。事故を防ぐために次のことを必ずお守りください。

安全のための注意事項を守る

以下の注意事項をよくお読みください。

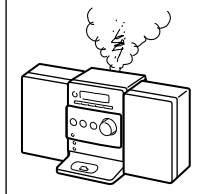
定期的に点検する

設置時や1年に1度は、電源コードに傷みがないか、コンセントと電源プラグの間にほこりがたまっていないか、電源プラグがしっかり差し込まれているか、などを点検してください。

故障したら使わない

動作がおかしくなったり、キャビネットや電源コードなどが破損しているのに気づいたら、すぐにお買い上げ店またはソニーの相談窓口に修理をご依頼ください。

万一、異常が起きたら

変な音・においがしたら、煙が出たら

❶ 電源を切る。
❷ 電源プラグをコンセントから抜く。
❸ お買い上げ店またはソニーの相談窓口に修理を依頼する。

警告表示の意味

取扱説明書および製品では、次のような表示をしています。表示の内容をよく理解してから本文をお読みください。

⚠危険

この表示の注意事項を守らないと、火災・感電・破裂などにより死亡や大けがなどの人身事故が生じます。

⚠警告

この表示の注意事項を守らないと、火災・感電などにより死亡や大けがなどの人身事故につながることがあります。

⚠注意

この表示の注意事項を守らないと、感電やその他の事故によりけがをしたり周辺の物品に損害を与えたりすることがあります。

注意を促す記号

火災

感電

指のケガに注意

行為を禁止する記号

禁止

分解禁止

接触禁止

ぬれ手禁止

行為を指示する記号

指示

プラグをコンセントから抜く

目次

準備

CDを聞く

“ウォークマン”を楽しむ

次のページにつづく

その他の操作と設定

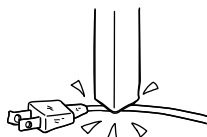
使用上のご注意・主な仕様

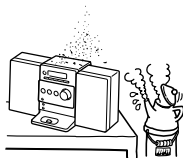
⚠警告　下記の注意事項を守らないと**火災・感電**により**死亡**や**大けが**の原因となります。

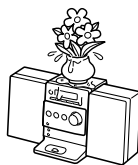
電源コードを傷つけない

電源コードを傷つけると、火災や感電の原因となります。

- 設置時に、製品と壁や棚との間にはさみ込んだりしない。
- 電源コードを加工したり、傷つけたりしない。
- 重いものをのせたり、引っ張ったりしない。
- 熱器具に近づけない。加熱しない。
- 移動させるときは、電源プラグを抜く。
- 電源コードを抜くときは、必ずプラグを持って抜く。

万一、電源コードが傷んだら、お買い上げ店またはソニーの相談窓口に交換をご依頼ください。

湿気やほこり、油煙、湯気の多い場所や、直射日光のあたる場所には置かない

上記のような場所に置くと、火災や感電の原因となることがあります。特に風呂場などでは絶対に使用しないでください。

内部に水や異物が入らないようにする

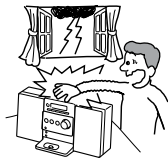
水や異物が入ると火災や感電の原因となります。本機の上に花瓶など水の入ったものを置かないでください。
万一、水や異物が入ったときは、すぐに本体の電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜き、お買い上げ店またはソニーの相談窓口にご相談ください。

キャビネットを開けたり、分解や改造をしない

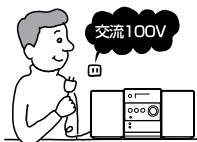
火災や感電、けがの原因となることがあります。
内部の点検や修理はお買い上げ店またはソニーの相談窓口にご依頼ください。

警告

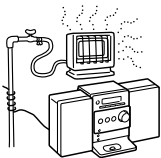
下記の注意事項を守らないと**火災・感電**により**死亡**や**大けが**の原因となります。

雷が鳴りだしたら、アンテナ線や電源プラグに触れない

本機やアンテナ線、電源プラグなどに触れると感電の原因となります。

本機を日本国外で使わない

交流100Vの電源でお使いください。海外など、異なる電源電圧の地域で使用すると、火災・感電の原因となります。

ガス管にアンテナ線をつながない

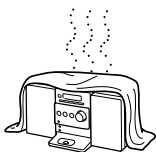
火災や爆発の原因となります。

注意

下記の注意事項を守らないと**けが**をしたり周辺の**家財に損害**を与えたりすることがあります。

ぬれた手で電源プラグにさわらない

感電の原因となることがあります。

風通しの悪い所に置いたり、通風孔をふさいだりしない

布をかけたり、毛足の長いじゅうたんや布団の上または壁や家具に密接して置いて、通風孔をふさぐなど、自然放熱の妨げになるようなことはしないでください。過熱して火災や感電の原因となることがあります。

⚠注意 下記の注意事項を守らないと**けが**をしたり周辺の**家財に損害**を与えたりすることがあります。

幼児の手の届かない場所に置く

ディスクの挿入口などに手をはさまれ、けがの原因となることがあります。お子さまがさわらぬようにご注意ください。

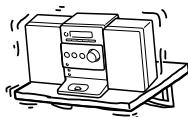
大音量で長時間つづけて聞かない

耳を刺激するような大きな音量で長時間つづけて聞くと、聴力に悪い影響を与えることがあります。特にヘッドホンで聞くときにご注意ください。
呼びかけられたら気がつくくらいの音量で聞きましょう。

はじめからボリュームを上げすぎない

突然大きな音が出て耳をいためることがあります。ボリュームは徐々に上げましょう。特に、雑音の少ないデジタル機器をヘッドホンで聞くときにはご注意ください。

安定した場所に置く

ぐらついた台の上や傾いたところなどに置くと、製品が落ちてけがの原因となることがあります。また、置き場所、取り付け場所の強度も充分に確認してください。

電源プラグは抜き差ししやすいコンセントに接続する

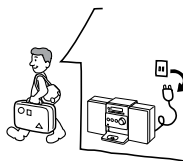
異常が起きた場合にプラグをコンセントから抜いて、完全に電源が切れるように、電源プラグは容易に手の届くコンセントにつないでください。
通常、本機の電源スイッチを切っただけでは、完全に電源から切り離されません。

⚠注意 下記の注意事項を守らないと**けが**をしたり周辺の**家財に損害**を与えたりすることがあります。

コード類は正しく配置する

本機に取り付ける電源コードやAVケーブルは、足にひっかけると機器の落下や転倒などにより、けがの原因となることがあります。充分に注意して接続、配置してください。

長期間使わないときは、電源プラグを抜く

長期間使用しないときは安全のため電源プラグをコンセントから抜いてください。絶縁劣化、漏電などにより火災の原因となることがあります。

お手入れの際、電源プラグを抜く

電源プラグを差し込んだままお手入れをすると、感電の原因となることがあります。

電池についての安全上のご注意 **液漏れ・破裂・発熱・発火・誤飲**による**大けが**や**失明**を避けるため、下記の注意事項を必ずお守りください。

⚠危険

電池の液が漏れたときは

素手で液をさわらない

電池の液が目に入ったり、身体や衣服につくと、失明やけが、皮膚の炎症の原因となることがあります。液の化学変化により、数時間たってから症状が現れることもあります。

必ず次の処理をする

- 液が目に入ったときは、目をこすらず、すぐに水道水などのきれいな水で充分洗い、ただちに医師の治療を受けてください。
- 液が身体や衣服についたときは、すぐにきれいな水で充分洗い流してください。皮膚の炎症やけがの症状があるときは、医師に相談してください。

警告

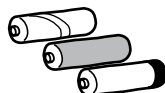
電池は乳幼児の手の届かない所に置く

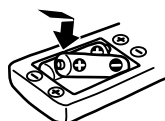
電池は飲み込むと、窒息や胃などへの障害の原因となることがあります。
万一、飲み込んだときは、ただちに医師に相談してください。

電池を火の中に入れない、加熱・分解・改造・充電しない、水で濡らさない

破裂したり、液が漏れたりして、けがややけどの原因となることがあります。

指定以外の電池を使わない、新しい電池と使用した電池または種類の違う電池を混ぜて使わない

電池の性能の違いにより、破裂したり、液が漏れたりして、けがややけどの原因となることがあります。

＋とーの向きを正しく入れる

＋とーを逆に入れると、ショートして電池が発熱や破裂をしたり、液が漏れたりして、けがややけどの原因となることがあります。
機器の表示に合わせて、正しく入れてください。

使い切ったときや、長時間使用しないときは、電池を取り出す

電池を入れたままにしておくと、過放電により液が漏れ、けがややけどの原因となることがあります。

録音についてのご注意

- 大切な録音の場合は、必ず事前にためし録りをし、正常に録音されていることを確認してください。
- 本機を使用中、万一不具合により録音されなかった場合の録音内容の補償については、ご容赦ください。
- あなたが録音したものは、個人として楽しむなどのほかは、著作権法上、権利者に無断で使用できません。

ステレオを聞くときのエチケット

ステレオで音楽をお楽しみになるときは、隣近所に迷惑がかからないような音量でお聞きください。特に、夜は小さめな音でも周囲にはよく通るものです。
窓を閉めたり、ヘッドホンをご使用になるなどお互いに心を配り、快い生活環境を守りましょう。
このマークは音のエチケットのシンボルマークです。

正常な使用状態で本製品に故障が生じた場合、当社は本製品の保証書に定められた条件にしたがって修理を致します。ただし、本製品の故障、誤動作または不具合により、録音、再生などにおいて利用の機会を逸したために発生した損害等の付随的損害の補償については、当社は一切その責任を負いませんので、あらかじめご了承ください。

CD再生時のご注意

本製品は、コンパクトディスク（CD）規格に準拠した音楽ディスクの再生を前提として、設計されています。最近、いくつかのレコード会社より著作権保護を目的とした技術が搭載された音楽ディスクが販売されていますが、これらの中にはCD規格に準拠していないものもあり、本製品で再生・録音できない場合があります。

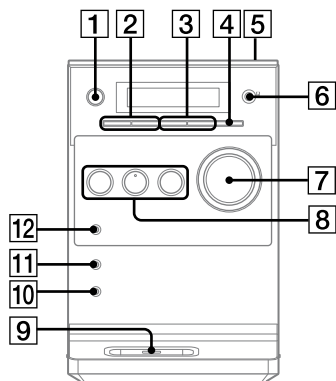
DualDiscについてのご注意

DualDiscとはDVD規格に準拠した面と、音楽専用面とを組み合わせた新しい両面ディスクです。なお、この音楽専用面はコンパクトディスク（CD）規格には準拠していないため、本製品での再生は保証いたしません。

商標について

- “ウォークマン”、“WALKMAN”、“WALKMAN”ロゴは、ソニー株式会社の登録商標です。
- 本機はFraunhofer IISおよびThomsonのMPEG Layer-3オーディオコーディング技術と特許に基づく許諾製品です。

各部の名前と働き

本体

リモコン

本書では、リモコンのボタンを使った操作説明を主体にしています。リモコンと同じ名前の本体のボタンは、同じ働きをします。

1

I/⏻（電源）ボタン
本機の電源を入／切します。

2

本体：選局 +/–ボタン
リモコン：+/–ボタン
聞きたいラジオ局の周波数に合わせます。

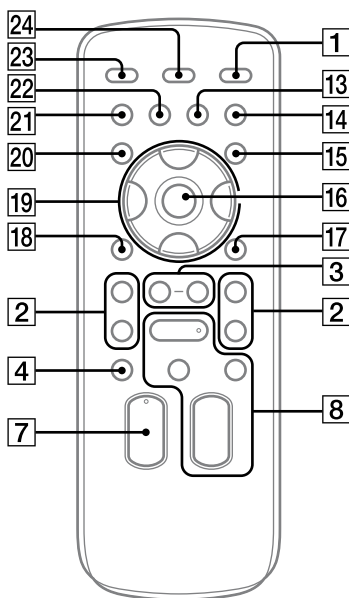
本体：⏮/⏭ボタン
リモコン：⏮/⏭ボタン
曲の頭出しをします。

◀◀/▶▶ボタン
曲の早戻しや早送りをします。

3

🗀 +/–ボタン（20、30ページ）
フォルダ(アルバム)を選択します。

4

曲削除ボタン（32ページ）
本機に接続した“ウォークマン”の曲やフォルダの削除を開始します。

次のページにつづく

5

≜ PUSH OPEN/CLOSE
ディスクをセットしたり、取り出したりするときに、ふたを開閉します。

6

リモコン受光部

7

本体：音量つまみ
リモコン：音量 +/–ボタン
音量を調節します。

8

本体：ファンクションボタン
リモコン：ファンクション +/–ボタン
ファンクションを切り換えます。

本体：►❚❚（再生／一時停止）ボタン

リモコン：►（再生）ボタン、❚❚（一時停止）ボタン
CDやMP3ディスク、本機に接続した"ウォークマン"の曲を再生したり、一時停止します。

■（停止）ボタン
CDやMP3ディスク、本機に接続した"ウォークマン"の曲の再生を停止します。
"ウォークマン"への録音を停止します。

9

WM-PORTコネクター（ウォークマン接続端子）（16、26、29ページ）
別売りの"ウォークマン"を接続します。

10

🎧（ヘッドホン）端子
別売りのヘッドホンを接続します。

11

外部入力端子（36ページ）
別売りの外部入力機器を本機に接続します。

12

ウォークマンワンタッチ録音ボタン（26ページ）
本機に接続した"ウォークマン"へCDやMP3ディスクの曲を録音します。

13

クリアボタン（22ページ）
プログラムした曲をプログラムから消します。

14

イコライザボタン（36ページ）
あらかじめ登録されている音質に切り換えます。

15

放送局登録ボタン（35ページ）
ラジオ局をプリセット登録します。

16

⊕（決定）ボタン
操作や設定を決定します。

17

オプションボタン（30ページ）
“ウォークマン”の操作時に押すと、“ウォークマン”のOPTIONボタンと同じ操作ができます（NW-S764/S765/S766、NW-S764K/S765K、NW-S764BTのみ（2011年10月現在））。

18

戻るボタン（33ページ）
操作前の状態に戻すことができます。
“ウォークマン”の操作時に押すと、“ウォークマン”のBACKボタンと同じ操作ができます（NW-S764/S765/S766、NW-S764K/S765K、NW-S764BTのみ（2011年10月現在））。

19

↑/↓/←/→ボタン
項目を選択したり、設定を変更します。
“ウォークマン”の操作時に押すと、“ウォークマン”の▲/▼/◀/▶ボタンと同じ操作ができます（NW-S764/S765/S766、NW-S764K/S765K、NW-S764BTのみ（2011年10月現在））。

20

時計/タイマー設定ボタン（17、38ページ）
時計や再生タイマーを設定します。

21

スリープボタン（38ページ）
スリープタイマーを設定します。

22

表示切換ボタン（37ページ）
表示窓に表示される内容を切り換えます。

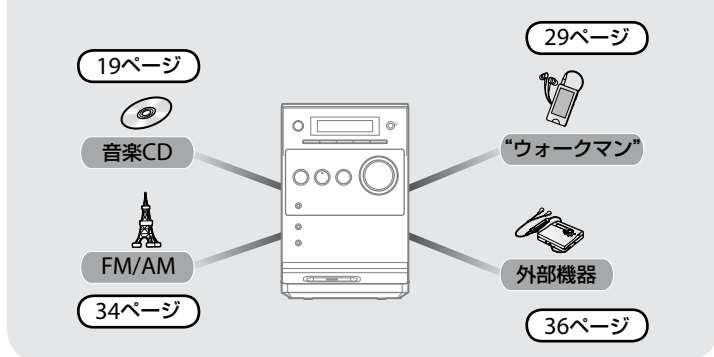
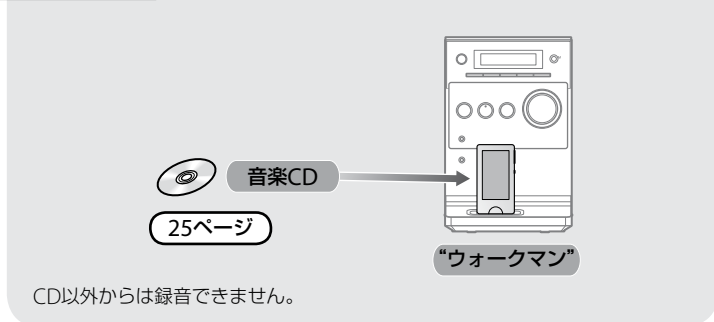
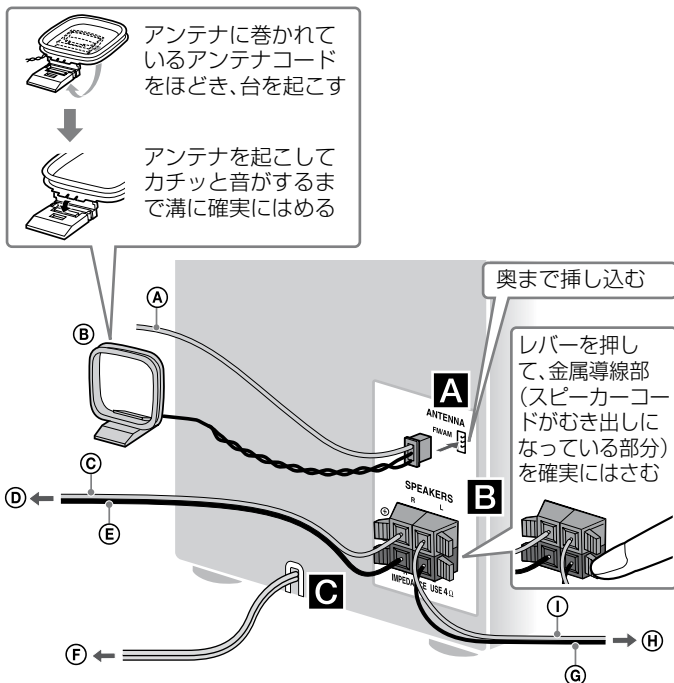
23

リピート/FMモードボタン（20、34ページ）
曲を繰り返し聞くときに使います。
FM放送のステレオ受信、モノラル受信を切り換えます。

24

再生モード/選局モードボタン（20、34ページ）
ディスクの再生モード（再生のしかた）を選択します。
ラジオ局の選局モードを切り換えます。

本機の楽しみかた

聞く いろいろな音源から音楽を聞く

録音する “ウォークマン”に直接録音する

CD以外からは録音できません。

接続する

Ⓐ FMアンテナ
Ⓑ AMループアンテナ
Ⓒ スピーカーコード（赤／⊕）
Ⓓ スピーカー（右）へ
Ⓔ スピーカーコード（黒／⊖）
Ⓕ コンセントへ
Ⓖ スピーカーコード（黒／⊖）
Ⓗ スピーカー（左）へ
Ⓘ スピーカーコード（赤／⊕）

次のページにつづく

A アンテナ(ANTENNA)

アンテナを接続しないとラジオ放送を受信できません。
受信状態の良い場所や方向を探して設置してください。
雑音の原因になるため、AMループアンテナは本体やスピーカーコード、他のAV機器から離してください。
FMアンテナは、先端をテープなどで固定してください。

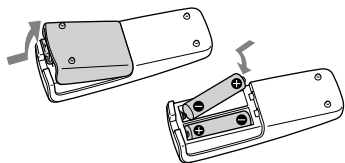
B スピーカー(SPEAKER)

スピーカーコード先端のむき出している部分を、奥までしっかりと挿し込んでください。

C 電源

すべての機器を接続したあと、本機の電源コードをコンセントにつないでください。

リモコンに電池を入れる

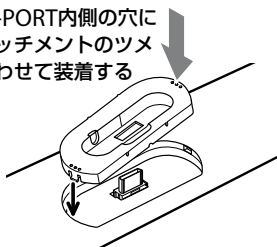
⊕と⊖の向きを合わせて、リモコンに単3形乾電池(R6、付属) 2個を入れます。イラストのように⊖極側から入れます。

ご注意

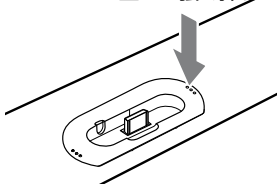
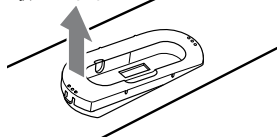
- 電池の使いかたを誤ると、液漏れや破裂のおそれがあります。次のことを必ず守ってください。
  – ⊕と⊖の向きを正しく入れてください。
  – 新しい電池と使った電池、または種類の違う電池を混ぜて使わないでください。
  – 電池は充電しないでください。
  – 長い間リモコンを使わないときは、電池を取り出してください。
  – 液漏れしたときは、電池入れについた液をよく拭き取ってから新しい電池を入れてください。
- リモコンを使うときは、リモコン受光部 6 に直射日光や照明器具などの強い光が当たらないようにしてください。リモコンで操作できないことがあります。
- 電池の交換時期は約6か月です。リモコンを本体に近づけないと操作しづらくなったら、2個とも新しい電池に交換してください。

“ウォークマン”を本機に接続するには

本機のWM-PORTに、付属の“ウォークマン”用アタッチメント(タイプAまたはタイプB)または“ウォークマン”に付属のアタッチメントを取り付けて、WM-PORT搭載の“ウォークマン”を接続して使うことができます。
対応するアタッチメントについては、23ページをご覧ください。

“ウォークマン” 用アタッチメントを装着する。

以下のアタッチメント装着の手順は、タイプAのアタッチメントを例としています。

アタッチメントの取りはずし方について

アタッチメントの「◦◦◦」部分（左端または右端）を上から押して、反対側の端を浮き上がらせて取りはずしてください。
以下のアタッチメント取りはずしの手順は、タイプAのアタッチメントを例としています。

反対側の端が浮き上がったら、アタッチメントをつまんで本機から取りはずす

本機を持ち運ぶときは

1 ディスクを取り出す。

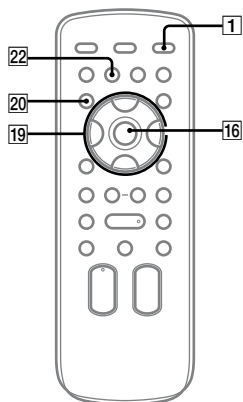
"ウォークマン"を接続している場合は取り外してください。

2 本体のI/⏻（電源）ボタン1を押して、電源を切る。

「STANDBY」の点滅表示が消えるまでお待ちください。

3 電源コードを抜く。

時計を合わせる

リモコンのボタンを使って時計を合わせます。

次のページにつづく

1 **I/⏻（電源）ボタン[1]を押して、電源を入れる。**

2 **時計/タイマー設定ボタン[20]を押す。**

「PLAY SET」が点滅するときは、↑/↓ボタン[19]を繰り返し押して「CLOCK」を選び、⊕ボタン[16]を押してください。

3 **↑/↓ボタン[19]を繰り返し押して「時」を合わせ、⊕ボタン[16]を押す。**

4 **「時」と同じ手順で「分」を合わせる。**

ご注意

停電になったり、電源コードを抜くと時計設定は解除されます。

電源が切れているときに時計を確認するには

表示切換ボタン[22]を押すと、約8秒間時計が表示されます。

オートスタンバイ機能について

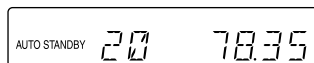
本機にはオートスタンバイ機能がついています。このオートスタンバイ機能によって、無操作または無音の状態が30分経過すると本機は自動的にスタンバイモードに移行します。

お買い上げ時の初期設定では有効になっていますが、本体のボタンを使ってオートスタンバイ機能を切ることができます。

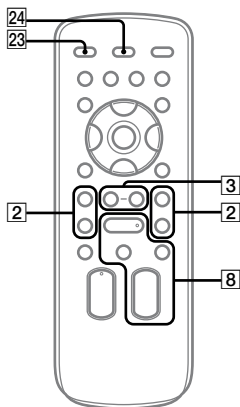
本機の電源が入っているときに、「AUTO.STBY OFF」が表示されるまで I/⏻ ボタン [1] を押し続ける。

オートスタンバイ機能を「オン」にするには、「AUTO.STBY ON」が表示されるまで同じ手順を繰り返してください。

オートスタンバイ機能を有効にすると、「AUTO STANDBY」が点灯します。

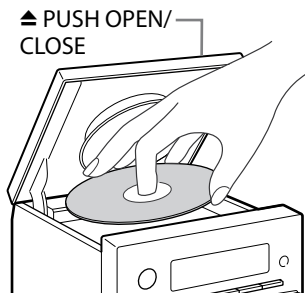
AUTO STANDBY 20 18.35

ご注意

- オートスタンバイ機能を有効にしていても、「TUNER FM」または「TUNER AM」のファンクションをお使いのときは無効となり、スタンバイモードへ移行しません。
- オートスタンバイ機能を有効にしていても、次の状態のときにはスタンバイモードへ移行しません。
  – 音声信号を検出したとき。
  – "ウォークマン"を接続しているとき。
  – 曲を再生しているとき。
  – 再生タイマーまたはスリープタイマー開始のための処理が始まったとき。

CD/MP3ディスクを再生する

1 ファンクション +/–ボタン 8 を繰り返し押して、CDファンクションを選ぶ。

「CD」が表示されます。

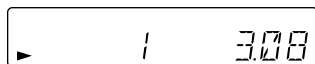
2 ふたの ≙ PUSH OPEN/CLOSE 5 を押してふたを開き、ラベル面を上にしてディスクをセットする。

ふたを開けると、「OPEN」が表示されます。

もう一度ふたの≙ PUSH OPEN/CLOSE 5 を押して、ふたを閉めます。このとき、「READING」が表示されます。

「NO DISC」が表示されたときは

ディスクが入っていない、または本機では再生できないディスクをセットしています。「使用上のご注意」(40ページ)をご覧になり、再生できるディスクをセットしてください。

3 ►ボタン(本体では►IIボタン) 8 を押して、再生を開始する。

次のページにつづく

その他の操作

こんなときは	操作
一時停止する	❚❚ボタン（本体では►❚❚ボタン）8を押す。もう一度押すと再生を再開します。
再生を止める	■ボタン8を押す。
曲を選ぶ	⏮/⏭ボタン（本体では⏮/⏭ボタン）2を押す。
曲中の聞きたい部分を探す	再生中に◄◄/►►ボタン（本体では⏮◄◄/►►⏭ボタン）2を押し続け、聞きたいところで指を離す。
曲を繰り返し聞く	リピートボタン23を繰り返し押して、「REP」（全曲リピート再生）または「REP1」（1曲リピート再生）を点灯させる。
MP3ディスク内のフォルダを選ぶ	📁 +/–ボタン3を繰り返し押す。

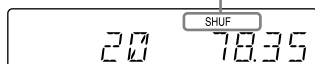
再生モードを変えるには

ディスクの停止中に再生モードボタン24を繰り返し押して、再生モードを切り換えます。再生モードは、以下のとおり切り換わります。

ノーマル再生（「なし」または「📁」点灯*）→ シャッフル再生（「SHUF」または「📁 SHUF」点灯*）→ プログラム再生（「PGM」点灯）

再生モード

SHUF

20 78.35

* 「📁」または「📁（SHUF）」を選択しているときは、MP3ディスク内の特定のフォルダ（アルバム）を再生対象にします。このとき、フォルダ内の全曲が再生されます。
CD（CD-DAディスク）が再生対象のときは、ノーマル再生「なし」またはシャッフル再生「SHUF」と同じ動作となります。

「PUSH STOP」が表示されたときは

再生中は再生モードの変更はできません。停止してから再生モードを変更してください。

リピート再生についてのご注意

- 「REP」は、再生を停止するまで全曲を繰り返し再生します。
- 「REP1」は、再生を停止するまで再生中の1曲だけを繰り返し再生します。

シャッフル再生についてのご注意

本機の電源を切ると、選択していたシャッフル再生モード（「SHUF」または「📁 SHUF」）はリセットされ、ノーマル再生（「📁」）モードとなります。

MP3ディスクについてのご注意

- MP3ディスク作成の際には、不要なフォルダやファイルをMP3ファイルといっしょに記録しないでください。
- フォルダ内にMP3ファイルが存在しない場合は、このフォルダは表示されません。
- 曲の再生は、MP3ディスク作成時の記録順（MP3ファイルのディスクへの記録の順番）となります。
- ファイル名に「.mp3」の拡張子を持つオーディオファイルのみが再生対象となります。
- ファイル名に「.mp3」の拡張子を持っていても、MP3形式のオーディオファイルでない場合には再生されません。このようなファイルの再生は、大音量のノイズとなり、スピーカーや本機の故障の原因となることがあります。

- MP3ディスクに対する本機の上限は次のとおりです。
  - 最大フォルダ数：255（ルートフォルダ含む）
  - 最大ファイル数：512
  - 認識可能な最大階層（フォルダ）レベル：8
- 本機は、エンコードソフトウェアや書き込み用ソフトウェア、CD-R/RWドライブ、使用メディアなど、MP3ディスクの作成に必要な機器やソフトウェアのすべてを保証するものではありません。作成したMP3ディスクが本機での再生に適さない場合、ノイズが再生される、再生が途切れる、まったく再生されないなど、不具合が発生するおそれがあります。

マルチセッションディスクについてのご注意

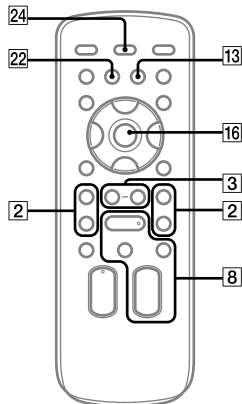
- 最初のセッションがCD-DAフォーマットで記録されている場合は、その他のセッションは認識されません。最初のセッションのCD-DAトラックだけを再生します。
- 最初のセッションとそれに続くセッションがCD-ROMフォーマットで記録されている場合は、異なるフォーマットで記録されたセッションに到達するまで、マルチセッション内のMP3ファイルを再生し続けます。

ご注意

ディスクをセットした後、「READING」の点滅表示が消えるまでふたを開けないでください。

好きな順に曲を聞く

（プログラム再生）

リモコンのボタンを使ってプログラム登録をします。

1 **ファンクション +/−ボタン8を繰り返し押して、CDファンクションを選ぶ。**

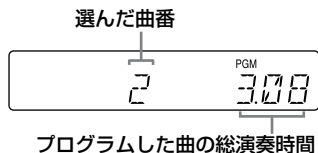
2 **停止中に再生モードボタン24を繰り返し押して「PGM」を点灯させ、プログラム再生モードを選ぶ。**

次のページにつづく

3 ⏮/⏭ボタン[2]を繰り返し押して、プログラムしたい曲を選ぶ。

MP3ディスクの特定のフォルダ（アルバム）内のMP3ファイルをプログラムに登録するときは、フォルダ +/–ボタン[3]でフォルダを選び、曲を選んでください。

4 ⊕ボタン[16]を押す。

選んだ曲がプログラムされます。

プログラムした曲の総演奏時間が100分を超える場合や、MP3ファイルをプログラムした場合には「– –.– –」と表示されます。

5 手順3、4を繰り返してプログラムする。最大25曲までプログラムできます。

「FULL」が表示されたときは
26曲目を登録しようとしています。「プログラムを消すには」をご覧になり、プログラムを消してから登録し直してください。

6 ►ボタン[8]を押す。

プログラム再生が始まります。登録したプログラムは、ディスクを取り出したり、電源コードを抜かない限り保持されます。プログラム再生後、同じプログラムを再生するには、►ボタン[8]を押してください。

プログラム再生を中止するには

停止中に、「PGM」が消えるまで再生モードボタン[24]を繰り返し押します。

プログラムを消すには

停止中に、クリアボタン[13]を押します。ボタンを押すたびに、最後にプログラム登録した曲から消えます。
登録していたプログラムをすべて消去すると、「NO STEP」が表示されます。

プログラムの登録数を確認するには

再生停止中に表示切換ボタン[22]を繰り返し押します。

"ウォークマン"ご利用の前に

対応機種以外の"ウォークマン"は使用しないでください。対応機種以外の機種の動作は保証しておりません。
"ウォークマン"を本機に接続する際は、WM-PORTに"ウォークマン"用アタッチメントを装着します(16ページ)。

"ウォークマン"の再生・録音・削除対応機種について

動作確認済み機種(2011年10月現在)

シリーズ	機種名	対応アタッチメント	再生	録音	削除
Aシリーズ	NW-A828/A829	タイプA	○	×	×
	NW-A845/A846/A847 NW-A855/A856/A857 NW-A865/A866/A867	"ウォークマン"に付属	○	○	○
Sシリーズ	NW-S636F/S638F/S639F NW-S636FK/S638FK	タイプA	○	×	×
	NW-S644/S645 NW-S644K/S645K	タイプA	○	○	○
	NW-S736F/S738F/S739F NW-S736FK/S738FK	タイプA	○	×	×
	NW-S744/S745/S746 NW-S744K/S745K	タイプA	○	○	○
	NW-S754/S755/S756 NW-S754K/S755K NW-S764/S765/S766 NW-S764K/S765K NW-S764BT	"ウォークマン"に付属	○	○	○
Eシリーズ	NW-E052/E053/E052K/ E053K	"ウォークマン"に付属	○	○	○
Xシリーズ	NW-X1050/X1060	タイプB	○	○	○

最新の対応機種については、下記ホームページの機種別サポートをご覧ください。
http://www.sony.co.jp/systemstereo-support/

次のページにつづく

ご注意

- 本機が対応する“ウォークマン”には、本機での再生のみに対応する機種と、再生／録音／曲およびフォルダの削除に対応する機種があります。再生のみに対応する“ウォークマン”をお使いの場合、本機での録音、“ウォークマン”の曲、フォルダの削除はできません。
- “ウォークマン”をフォーマットするときは、“ウォークマン”本体の機能（メモリーの初期化機能）を使ってフォーマットしてください。他の方法でフォーマットした場合、本機からの録音が行えないなどの不具合が発生するおそれがあります。詳しくは、“ウォークマン”の取扱説明書をご覧ください。
- 本機は“ウォークマン”の動作のすべてを保証するものではありません。
- 本機に“ウォークマン”を接続するときは、「データベース作成中」の表示が“ウォークマン”の表示窓から消えていることを確認してから接続してください。
- 録音中や削除中に、本機から“ウォークマン”をはずさないでください。“ウォークマン”のデータが破損したり、“ウォークマン”本体が故障するおそれがあります。
- お使いの“ウォークマン”の機種によっては、本機の操作に対する反応が遅れる場合があります。
- 次のケースでは、録音ができません。
  - フォルダあたりのファイル数が999を超えた場合
  - ファイル数（MP3形式のファイルの総数）が5000を超えた場合
  - フォルダ数が255を超えた場合（空フォルダを除く）

  ドラッグアンドドロップで転送したMP3形式の曲や本機から録音した曲が対象になります。X-アプリ（SonicStage）で転送した曲は数値に含まれません。
  これらファイル数、フォルダ数の上限は、“ウォークマン”の階層構造の状態によって異なります。そのため、不要なフォルダやファイルは“ウォークマン”に保存しないでください。

“ウォークマン”の充電について

本機の電源が入っているときは、“ウォークマン”をWM-PORTコネクター 9 に挿し込むと、自動的に充電が始まります。充電の状況は“ウォークマン”に表示されます。詳しくは、“ウォークマン”の取扱説明書をご覧ください。

“ウォークマン”の充電に関するご注意

本機の電源を切っているときは、“ウォークマン”は充電されません。

CDを“ウォークマン”に録音する

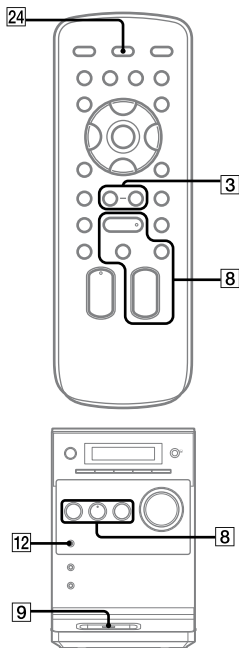
CD-DAディスクまたはMP3ディスクの曲を、“ウォークマン”へ録音することができます。録音に対応している“ウォークマン”については、「“ウォークマン”の再生・録音・削除対応機種について」(23ページ)をご覧ください。本機の録音モードには、ディスクの全曲をまとめて“ウォークマン”へ録音する「REC ALLモード」、再生中の曲を“ウォークマン”へ録音する「REC1モード」、お好みの曲を録音する「REC PGMモード」の3種類があります。

ご注意

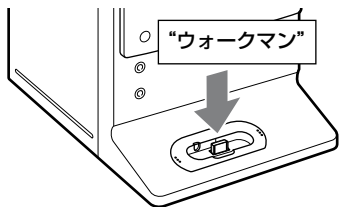
- 「NO SUPPORT」と表示されたときは、お使いの“ウォークマン”は本機での録音に対応していません。対応機種については、23ページをご覧ください。
- CD-DAディスクから録音した場合、タイトルは付きません。ファイル名に通し番号が付きます。詳しくは「フォルダ名とファイル名について」(28ページ)をご覧ください。
- 本機では、“ウォークマン”内の曲のタイトルなどの変更はできません。
- MP3ディスクからの録音中は、高速録音モードとなり、音は聞けません。

ちょっと一言

- 録音した曲の保存先については、「録音した曲の保存先について」(27ページ)をご覧ください。
- CD-DAディスクが音源のときは、録音した曲はMP3形式(ビットレートは128kbps)に変換されます。MP3ディスクが音源のときは、録音後のフォーマットもMP3形式となります(ビットレートも音源と同じ)。

- 録音に必要な“ウォークマン”の空き容量は、CD-DAディスクから録音する場合、1分あたり約1MBが目安となります。MP3ディスクから録音する場合には、より多くの空き容量が必要となることがあります。“ウォークマン”で空き容量を確認することができます。詳しくは、“ウォークマン”の取扱説明書をご覧ください。
- CD-DAディスクからの録音速度は等倍です。

次のページにつづく

ディスクの全曲をまとめて録音する（REC ALLモード）

1 “ウォークマン”を本体のWM-PORTコネクター 9 に接続する。

2 ディスクを本機にセットする。

3 本体のウォークマンワンタッチ録音ボタン 12 を押す。

「REC ALL」が点滅します。
しばらくすると「REC >>>WM」が表示され、録音が始まります。
録音が完了すると、“ウォークマン”へのアクセスおよびディスクの再生が自動的に停止します。

録音を途中で止めるには

■ボタン 8 を押します。

再生中の曲だけを録音する（REC1モード）

1 “ウォークマン”を本体のWM-PORTコネクター 9 に接続する。

2 ファンクション ＋/－ボタン 8 を繰り返し押して、CDファンクションを選ぶ。

「CD」が表示されます。

3 ディスクを本機にセットする。

4 録音したい曲を再生する。

5 本体のウォークマンワンタッチ録音ボタン 12 を押す。

「REC1」が点滅します。
しばらくすると「REC >>>WM」が表示され、録音が始まります。
録音が完了すると、“ウォークマン”へのアクセスが自動的に停止します。ディスクの再生は継続します。

録音を途中で止めるには

■ボタン 8 を押します。

お好みの曲だけを録音する（REC PGMモード）

プログラム登録した曲のみを“ウォークマン”に録音することができます。

1 “ウォークマン”を本体のWM-PORTコネクター 9 に接続する。

2 ファンクション ＋/－ボタン 8 を繰り返し押して、CDファンクションを選ぶ。

「CD」が表示されます。

3 ディスクを本機にセットする。

4 お好みの曲をプログラム登録する。

「好きな順に曲を聞く」(21ページ)の手順2 ～ 5を行ってください。

5 本体のウォークマンワンタッチ録音ボタン⑫を押す。

「REC PGM」が点滅します。
しばらくすると「REC >>>WM」が表示され、録音が始まります。
録音が完了すると、"ウォークマン" へのアクセスおよびディスクの再生が自動的に停止します。

録音を途中で止めるには

■ボタン⑧を押します。

MP3ディスクの特定のフォルダを録音対象にするには

MP3ディスクの特定のフォルダを録音対象にしたいときは、録音前に再生モードボタン㉔で再生モードをフォルダモード(📁点灯)にしておき、📁 +/–ボタン③を繰り返し押して該当のフォルダを選び、ウォークマンワンタッチ録音ボタン⑫を押してください。

こんな表示が出たときは

- 「DEVICE ERROR」が表示されたときは、本機がサポートしていないデバイスを接続しています。
- 「NoDEVICE」が表示されたときは、"ウォークマン" が接続されていません。"ウォークマン" を本体のWM-PORTコネクター⑨に接続してください。
- 「DEVICE FULL」が表示されたときは、"ウォークマン" の空き容量がありません。
- 「FOLDER FULL」が表示されたときは、録音可能なフォルダ数が上限に達しています。
- 「TRACK FULL」が表示されたときは、録音可能なファイル数が上限に達しています。
- 「REC ERROR」が表示されたときは、録音を開始していないか、録音が正常に行われていません。「故障かな？と思ったら」の「"ウォークマン"」の項目(44、45ページ)をご覧ください。
- 「FATAL ERROR」は、録音中に "ウォークマン" を取りはずしたときに表示されます。録音中に "ウォークマン" を取りはずさないでください。"ウォークマン" のデータが破損したり、"ウォークマン" 本体が故障するおそれがあります。

録音した曲の保存先について

本機で録音した曲は、"ウォークマン" の「ミュージック」→「フォルダー」の中にあります。音源の種類や録音モードによって以下のようなフォルダに分類されます。

CD-DA：CD-DAディスクをREC ALLモードで録音したとき
CD-MP3：MP3ディスクをREC ALLモードで録音したとき
PROGRAM：プログラム再生モードを使って録音したとき
REC1：REC1モードで録音したとき

ちょっと一言

CD-DAディスクから録音した場合など、アルバム情報やアーティスト情報がない録音データは、"ウォークマン" の「アルバム」や「アーティスト」などでは「不明」に分類されます。

次のページにつづく

フォルダ名とファイル名について

“ウォークマン”へ録音すると、“ウォークマン”内の「フォルダー」には以下の命名ルールに従ってフォルダとMP3ファイルが生成されます。保存先については、「録音した曲の保存先について」(27ページ)をご覧ください。

REC ALLモード時

音源	フォルダ名	ファイル名
MP3	音源と同じ[1]	
CD-DA	“CDDA001”[2]	“TRACK001”[3]

REC1モード時

音源	フォルダ名	ファイル名
MP3	“REC1”[4]	音源と同じ[1]
CD-DA		“TRACK001”[3]

REC PGMモード時

音源	フォルダ名	ファイル名
MP3	“PGM_001”[2]	音源と同じ[1]
CD-DA		“TRACK001”[3]

[1] 最大61文字までがファイル名、最大65文字までがフォルダ名になります。

[2] フォルダ番号が連番で割り振られます（最大255（「ROOT」フォルダおよび「MUSIC」フォルダ含む））。

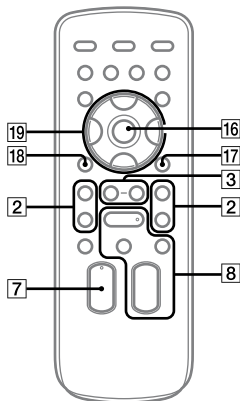
[3] ファイル番号が連番で割り振られます。

[4] 最初にREC1モードで録音を実行したときに「REC1」フォルダが生成されます。以後、REC1モードで録音を行うと、常にこの「REC1」フォルダ内に録音した曲が保存されます。

ご注意

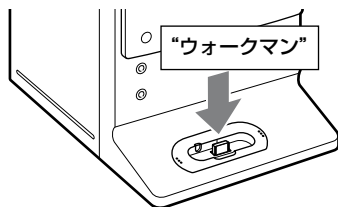
- CD以外からは録音できません。
- “ウォークマン”がデータベースの更新中のときは、更新が終わるまで本機に接続しないでください。
- 本機で録音を開始すると、“ウォークマン”の全データの読み込みが行われます。“ウォークマン”に多数のフォルダやオーディオファイルがあると、録音を開始するまで時間がかかる場合があります。
- REC ALLモードでの録音時は、シャッフル再生またはリピート再生モードは自動的に解除され、ノーマル再生モードとなります。プログラム再生モードも、曲の登録がないときは解除されノーマル再生モードとなります。
- CD-TEXT情報を持つCD-DAトラックが音源の場合、録音後のMP3ファイルにCD-TEXT情報は含まれません。
- 録音を途中で止めると、曲の途中まで録音された不完全なMP3ファイルが生成されます。
- 次のような条件下では、録音は自動的に停止します。
  - 録音中に“ウォークマン”の空き容量がなくなった。
  - “ウォークマン”に録音できる曲数が本機の仕様の上限に達した。
- 録音時に“ウォークマン”に同名のフォルダやファイルが存在するときは、生成時のフォルダまたはファイルの名前の最後に、連番が追加されます。このため、もともとあったフォルダやファイルが上書きされることはありません。

“ウォークマン”の曲を聞く

別売りの“ウォークマン”を本機と接続することで、“ウォークマン”の音楽や音声データを聞くことができます。再生に対応している“ウォークマン”については、「“ウォークマン”の再生・録音・削除対応機種について」（23ページ）をご覧ください。

1 ファンクション +/–ボタン8を繰り返し押して、ウォークマンファンクションを選ぶ。

「WALKMAN」が表示されます。

2 “ウォークマン”を本体のWM-PORTコネクター 9に接続する。

“ウォークマン”を接続する前に、“ウォークマン”のホームメニューで「ミュージック」や「ポッドキャスト」など、ライブラリを選択して曲を再生し、停止状態にしてください。

3 ►ボタン（本体では►❚❚ボタン）8を押して、再生を開始する。

録音した曲を聞く

一度“ウォークマン”を本機から取り外し、録音した曲を“ウォークマン”で再生してください。再生を停止してから“ウォークマン”を本機に接続し、本機を操作して再生してください。
録音した曲を“ウォークマン”で再生するには、「録音した曲の保存先について」（27ページ）をご覧になり、録音した曲を選んでください。

次のページにつづく

その他の操作

本体またはリモコンのボタンを使って以下の操作ができます。

こんなときは	操作
一時停止する	❚❚ボタン（本体では►❚❚ボタン）8を押す。
再生を止める	■ボタン8を押す。
フォルダをスキップする[1]	フォルダ +/–ボタン3を押す。
曲を選ぶ、オーディオブックやポッドキャストデータのチャプターを選ぶ	⏮/⏭ボタン（本体では⏮/⏭ボタン）2を押す。
曲中の聞きたい部分を探す、オーディオブックやポッドキャストデータの聞きたい部分を探す	再生中に◀◀/▶▶ボタン2を押し続け、聞きたいところで指を離す。
"ウォークマン"の表示窓で、メニュー項目や再生する曲を選ぶ[2]	▲/▼/◀/▶ボタン19を押す。
"ウォークマン"の表示窓で、リスト画面の次の画面に進んだり、曲の再生を始める[2]	⊕ボタン16を押す。
"ウォークマン"の表示窓で、リスト画面の前の画面に戻る[2]	戻るボタン18を押す。
"ウォークマン"の表示窓にオプションメニューを表示する[2]	オプションボタン17を押す。

[1] フォルダのスキップができないときは、"ウォークマン"の「ミュージック」以下のサーチメニューの検索方法を「アーティスト」または「アルバム」にしてください。お使いの"ウォークマン"によっては機能しません。

[2] NW-S764/S765/S766、NW-S764K/S765K、NW-S764BTのみ（2011年10月現在）

ご注意

- "ウォークマン"を抜き挿しするときは、WM-PORTコネクター 9の角度に沿ってまっすぐ抜き挿ししてください。また、WM-PORTコネクター 9が破損するおそれがあるため、"ウォークマン"をひねったり、反らせないようご注意ください。
- "ウォークマン"を接続したままの状態で、本機を移動しないでください。故障の原因となることがあります。
- "ウォークマン"を抜き挿しするときは、本機をしっかり手で押さえ、"ウォークマン"の操作ボタンを誤って押さないようご注意ください。
- 本機のWM-PORTコネクター 9は、"ウォークマン"専用です。他社製のポータブルオーディオプレーヤーを接続しないでください。
- Bluetooth機能付きの"ウォークマン"は、Bluetooth機能を解除してからお使いください。詳しくは、"ウォークマン"の取扱説明書をご覧ください。

- 音が出ないなどの問題が発生した場合は、本機から"ウォークマン"を取りはずし、接続し直してください。
- "ウォークマン"を本機で使用しているときは、"ウォークマン"のヘッドホン端子には音声は出力されません。
- FMチューナーやワンセグチューナー搭載の"ウォークマン"を本機で使用すると、放送が受信できなかったり、感度が低下することがあります。
- 音量は、リモコンの音量 +/–ボタン(本体では音量つまみ) 7を使って調節してください。"ウォークマン"側で音量を調節しても、音量は変わりません。
- "ウォークマン"を取りはずすときは、再生を停止してから取りはずしてください。
- 本機は"ウォークマン"の動作のすべてを保証するものではありません。

"ウォークマン"の曲を削除する

「NO SUPPORT」と表示されたときは、お使いの"ウォークマン"は、本機での曲やフォルダの削除に対応していません。そのため、"ウォークマン"の曲やフォルダの削除は、パソコン上での削除をおすすめします。詳しくは、"ウォークマン"の取扱説明書をご覧ください。
本機での削除に対応する機種をお使いの場合には、「録音した曲を削除するには」(32ページ)の手順でも、曲やフォルダを削除することができます。ただし、"ウォークマン"内のすべての曲を削除できるものではありません。詳しくは、「削除可能なフォルダ/曲について」(32ページ)をご覧ください。
削除に対応している"ウォークマン"については、「"ウォークマン"の再生・録音・削除対応機種について」(23ページ)をご覧ください。

次のページにつづく

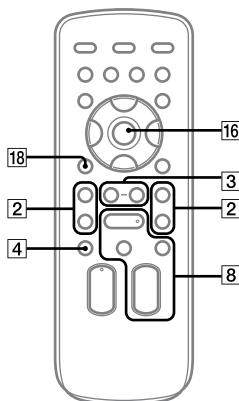
削除可能なフォルダ/曲について

本機で削除できるのは、本機で録音した曲とフォルダ、パソコンから"ウォークマン"にドラッグアンドドロップして転送したMP3形式の曲やフォルダです。以下の曲やフォルダは本機で削除できません。

– X-アプリ（SonicStage）から"ウォークマン"に転送した曲やフォルダ
– パソコンから"ウォークマン"にドラッグアンドドロップして転送したMP3形式以外の曲やフォルダ
– 他のオーディオ機器から"ウォークマン"に直接録音した曲やフォルダ

本機で録音した曲の保存先やファイル名については、「録音した曲の保存先について」（27ページ）と「フォルダ名とファイル名について」（28ページ）をご覧ください。

録音した曲を削除するには

録音した曲やフォルダを削除することができます。

1 "ウォークマン"を本体のWM-PORTコネクター 9 に接続する。

2 ファンクション +/–ボタン 8 を繰り返し押して、ウォークマンファンクションを選ぶ。

「WALKMAN」が表示されます。

3 曲削除ボタン 4 を押す。

「CHECKING」のメッセージ点滅後、「SELECT FLDR/TRK」のメッセージが表示されます。

「NO TRACK」が表示されたときは
"ウォークマン"に削除可能な曲がありません。詳しくは、「削除可能なフォルダ/曲について」(32ページ)をご覧ください。

4 |◀◀/▶▶|ボタン（本体では|◁◁/▷▷|ボタン）2または🗀 +/–ボタン3を繰り返し押して、削除したい曲またはフォルダを選ぶ。

曲またはフォルダの名前と「ERASE?」のメッセージが表示され、削除対象の選択状態となります。削除したい曲またはフォルダを変更したいときは、選び直してください。
「ERASE?」のメッセージは、手順5へ進むまで10秒間隔で表示されます。

5 ▶ボタン（本体では▶❚❚ボタン）8を押して、削除対象の曲またはフォルダの選択が正しいか音を聞いて確認する。

選択した曲（フォルダを選択した場合は一曲目）が再生されます。
再生中は、|◀◀/▶▶|ボタン（本体では|◁◁/▷▷|ボタン）2、❚❚ボタン（本体では▶❚❚ボタン）8での操作が可能です。選択が間違っているときは、曲またはフォルダを選び直してください。

6 ⊕ボタン16を押す。

「ERASE??」の確認メッセージが表示されます。
削除対象を変更したいときは、↶ 戻るボタン18を押して手順4からやり直してください。
削除を中止したいときは、■ボタン8を押してください。

7 ⊕ボタン16を押す。

「ERASING」が表示され、選択した曲またはフォルダが削除されます。しばらくすると「COMPLETE」が表示され、削除が完了します。

8 引き続き曲やフォルダを削除したいときは、手順4 〜 7を繰り返す。

9 削除を終了するときは、■ボタン8を押す。

こんな表示が出たときは

- 「ERASE ERROR」が表示されたときは、“ウォークマン”の曲やフォルダ（アルバム）の削除に失敗しています。
- 「FATAL ERROR」は、削除中に“ウォークマン”を取りはずしたときに表示されます。削除中に“ウォークマン”を取りはずさないでください。“ウォークマン”のデータが破損したり、“ウォークマン”本体が故障するおそれがあります。

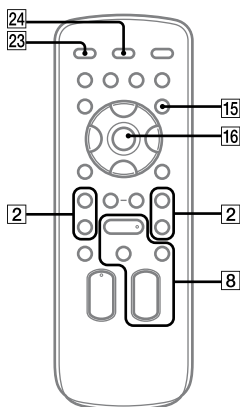
ご注意

曲削除ボタン4を押すと、“ウォークマン”の全データの読み込みが行われます。“ウォークマン”に多数のフォルダやオーディオファイルがあると、「CHECKING」の表示が消えるまで時間がかかる場合があります。

ちょっと一言

- 手順3、4、6の操作中に■ボタン8を押すと、操作を中断して削除を途中で止めることができます。
- 削除対象として曲またはフォルダを選択した後も、削除実行前であれば、↶ 戻るボタン18を押すことで、いつでも削除対象の未選択状態（「SELECT FLDR/TRK」のみの表示状態）に戻すことができます。

その他の操作と設定

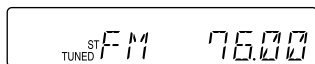
ラジオを聞く

ラジオ局を受信する

1 ファンクション +/–ボタン8を繰り返し押して、「TUNER FM」または「TUNER AM」を選ぶ。

2 選局モードボタン24を繰り返し押して「AUTO」を表示させる。

3 +/–ボタン（本体では選局+/–ボタン）2を押す。

表示窓の周波数表示の数字が動き始めます。
ラジオ局を受信すると自動的に止まり、「TUNED」（受信中）と「ST」（FMステレオ放送のときのみ）が点灯します（オートチューニング）。

ST
TUNED FM 76.00

「TUNED」が点灯せずラジオ局を受信できなかったときは、■ボタン8を押して、以下の手順に従って手動で選局することもできます。

手動で選局する場合（マニュアルチューニング）
選局モードボタン24を繰り返し押して「MANUAL」を表示させ、+/–ボタン（本体では選局 +/–ボタン）2を繰り返し押して、聞きたいラジオ局の周波数に合わせます。

ちょっと一言
FMステレオ放送の受信中に雑音が多いときは、FMモードボタン23を繰り返し押して「MONO」を表示させ、モノラル受信に切り換えてください。雑音を低減できます。

ラジオ局を登録する

お好みのラジオ局を登録しておくことができます。

1 **登録したいラジオ局を受信する。**

2 **放送局登録ボタン⑮を押す。**

3 **+/–ボタン②を繰り返し押して、プリセット番号を選ぶ。**

すでに登録済みのプリセット番号を選んだ場合は、新たに受信しているラジオ局の登録に置き換わります。

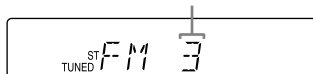
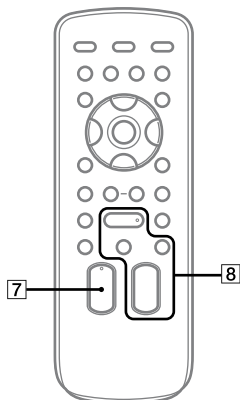
4 **⊕ボタン⑯を押して、登録を決定する。**

「COMPLETE」が表示されます。

5 **手順1 ～ 4を繰り返して他のラジオ局を登録する。**

FM放送は20局まで、AM放送は10局まで登録することができます。
停電になったり、電源コードを抜いても、登録されたラジオ局は約半日保存されます。

登録したラジオ局を聞くには

選局モードボタン㉔を繰り返し押して「PRESET」を表示させ、+/–ボタン②を押して、聞きたいラジオ局のプリセット番号を選びます。

外部機器を接続して聞く

1 **音量 –ボタン7を押して、音量レベルを下げる。**

2 **別売りの外部機器を外部入力端子11に接続する。**

別売りのオーディオ接続コードを使って、外部機器のオーディオ出力端子に接続します。

3 **ファンクション +/–ボタン8を繰り返し押して、AUDIO INファンクションを選ぶ。**

「AUDIO IN」が表示されます。

4 **外部機器の再生を始める。**

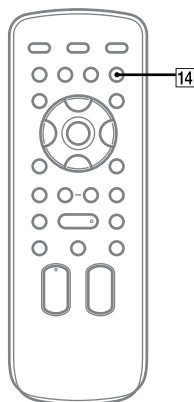
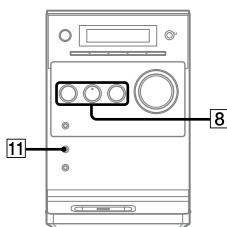
再生が始まったら、外部機器側の音量を調節してください。

5 **音量+/–ボタン7を押して、音量を調節する。**

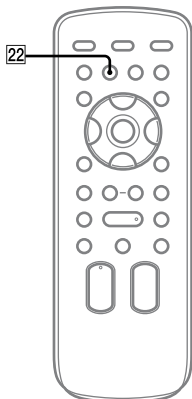
ご注意

外部機器の音量が小さすぎると、本機のオートスタンバイ機能によって自動的にスタンバイモードに移行します。詳しくは、「オートスタンバイ機能について」(18ページ)をご覧ください。

好みの音に変える

いろいろなサウンド効果を楽しむことができます。

イコライザボタン14を繰り返し押す。

表示されているサウンド効果(「POP」、「JAZZ」、「FLAT」、「ROCK」)に切り変わります。

画面の表示を切り換える

こんなときは	操作
画面で情報を見る*	電源「入」時に、表示切換ボタン22を繰り返し押す。
電源「切」時に時計を表示する	電源「切」時に、表示切換ボタン22を押す。約8秒間時計が表示されます。

* CDやMP3ディスクの次のような情報を見ることができます。ただし、表示される情報は本機の状態によって異なります。

CD-DAディスクの場合

– 総演奏時間、総トラック数

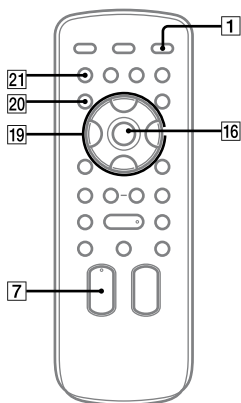
MP3ディスクの場合

– 曲名(「♫」)
– アーティスト名(「👤」)
– アルバム名、フォルダ名(「📁」)
– 総フォルダ(アルバム)数
– ボリュームラベル(MP3ディスクに名前が付いている場合)

表示に関するご注意

- 本機で表示できない文字があった場合、アンダースコア(_)に置き換えて表示されます。
- 以下の情報は表示されません。
  – MP3ディスクの総演奏時間および残り時間
  – 曲(MP3ファイル)の残り時間
- 以下の情報は正しく表示されないことがあります。
  – VBR（Variable Bit Rate)の設定でエンコードされたMP3ファイルの再生経過時間
  – ISO9660 Level 1/Level 2またはJolietの拡張フォーマットの命名規則に準拠していないフォルダ名、ファイル名
- 以下の情報は表示されます。
  – CD-DAディスクの総演奏時間(ノーマル再生モードでの再生中)
  – 曲(CD-DAトラック)の残り時間
  – CD-DAディスクの残り時間(ノーマル再生モードでの再生中)
  – MP3ファイルのID3タグの情報。ID3のバージョン1とバージョン2のタグが混在して使われている場合は、バージョン2のタグ情報が優先的に表示されます。
  – ID3タグの先頭から32文字。表示可能な文字の種類は、大文字(A ～ Z)、数字(0 ～ 9)、記号(″ $ % ’ ( ) * + , – . / < = > @ [\ ] _ ` { | } ! ? ^ ~)です。

タイマーを使う

本機のタイマー機能には、スリープタイマー、再生タイマーの2種類があります。
再生タイマーが働いているときにスリープタイマーを使うと、スリープタイマーが優先されます。
タイマーの設定は、リモコンのボタンで行います。

スリープタイマー

指定した時間が経過すると、自動的に本機の電源が切れます。スリープタイマーは、本機の時計を合わせていない状態でも使用できます。

スリープボタン21を繰り返し押す。

例えば、30分後に電源が切れるようにするときは、「30MIN」を選びます。
スリープタイマーを中止するときは、「OFF」を選びます。

再生タイマー

指定した時刻に毎日自動的に音源をスタートさせ、音楽やラジオを聞くことができます。
設定の前に、本機の時計を合わせてください。

1 音源を準備する。

音源を準備し、音量 +/–ボタン7を押して音量を調節します。音源として指定できるのは、ディスクまたはラジオ局です。
ディスクの好きな曲だけを再生したいときは、プログラム登録をしてください。詳しくは、「好きな順に曲を聞く」（21ページ）をご覧ください。
ラジオ局を音源にするときは、オートチューニング、マニュアルチューニング、登録済みのプリセットからの選択のいずれかの方法で、お好みのラジオ局に周波数を合わせてください（34、35ページ）。

2 時計/タイマー設定ボタン20を押して、再生タイマーの設定を開始する。

3 ↑/↓ボタン19を繰り返し押して「PLAY SET」を選び、⊕ボタン16を押す。

「ON TIME」の表示に続き、開始時刻の時間が点滅します。

4 開始時刻を設定する。

↑/↓ボタン⑲を繰り返し押して「時」を設定し、⊕ボタン⑯を押します。
分表示が点滅したら、同様に「分」を設定します。
「分」の設定が終わると、「OFF TIME」の表示とともに終了時刻の設定に切り換わります。

5 手順4と同様の手順で終了時刻を設定する。

「TIME NG」が点滅表示されたときは

開始時刻と終了時刻が同時刻になっています。終了時刻を設定し直してください。

6 音源を選ぶ。

↑/↓ボタン⑲を繰り返し押して音源(「TUNER FM」、「TUNER AM」、「CD PLAY」)を選び、⊕ボタン⑯を押します。音源の設定が終わると、再生タイマーの設定確認が表示されます。

7 I/⏻ボタン1を押して、電源を切る。

タイマー開始時刻の約15秒前に自動的に電源が入ります。開始時刻に電源が入っていると、再生タイマーは働きません。
電源が入り音源の再生が始まるまで、本機の操作はしないでください。

再生タイマーの設定を確認するには

1. **時計/タイマー設定ボタン⑳を押す。**
2. **↑/↓ボタン⑲を繰り返し押して、「SELECT」を選ぶ。**
3. **⊕ボタン⑯を押す。**
4. **↑/↓ボタン⑲を繰り返し押して、「PLAY SEL」を選ぶ。**
5. **⊕ボタン⑯を押す。**
   再生タイマーの設定が表示されます。

再生タイマーを中止するには

1. **時計/タイマー設定ボタン⑳を押す。**
2. **↑/↓ボタン⑲を繰り返し押して、「SELECT」を選ぶ。**
3. **⊕ボタン⑯を押す。**
4. **↑/↓ボタン⑲を繰り返し押して、「OFF」を選ぶ。**
5. **⊕ボタン⑯を押す。**

設定を変更するには

再生タイマーの設定をやり直してください。

ご注意

再生タイマーの音源に「TUNER」(ラジオ)を選択した場合、ラジオ局の周波数やバンド(FM/AM)は再生タイマー設定時のチューニングに固定されます。設定後に周波数やバンドを変更しても、再生タイマーには反映されません。

ちょっと一言

手動で中止しないかぎり、指定した時刻に毎日起動します。

使用上のご注意・主な仕様

使用上のご注意

再生できるディスク

- 音楽用CD
- CD-R/CD-RW（CD-DAトラックまたはMP3ファイルの音楽データ）

* データのないCD-R/CD-RWディスクを使用しないでください。ディスクにダメージを与えるおそれがあります。

再生できないディスク

- CD-ROM
- 音楽CDの規格に準拠していない形式で記録されたCD-RおよびCD-RWディスク、ISO9660 Level 1/Level 2またはJolietのフォーマットに準拠しないCD-RおよびCD-RWディスク
- マルチセッション方式で記録して、セッションクローズ処理をしていないCD-RおよびCD-RWディスク
- 記録品質の悪いCD-RおよびCD-RWディスク、傷、汚れのあるCD-RおよびCD-RWディスク、互換性のないレコーダーで記録したCD-RおよびCD-RWディスク
- 書き込み用ソフトウェアやレコーダーによる「ファイナライズ処理」が正常に終了していないCD-RおよびCD-RWディスク
- MP3形式（MPEG 1 Audio Layer-3）以外のフォーマットのオーディオファイルが記録されたCD-RおよびCD-RWディスク
- 円形以外の特殊な形状（カード型、ハート型、星型など）をしたディスク
- 紙やシールの貼られたディスク
- 中古ディスクやレンタルディスクで、セロハンテープやレンタルディスクのラベルなどの接着剤がはみ出したり、はがしたあとのあるディスク
- 盤面印刷で作成したラベルのインクが乾いていないディスク

CDの取り扱いかた

- ふだんのお手入れは、柔らかい布でディスクの中心から外の方向へ軽く拭きます。汚れがひどいときは、少し湿らせた布で拭いたあと、乾いた布で水気を拭き取ってください。ベンジンやレコードクリーナー、静電気防止剤などは使わないでください。
- 直射日光が当たる場所、車やトランクの中など、高温になるところには置かないでください。
- 市販のCDレンズ用クリーニングディスクは、本機では使わないでください。故障するおそれがあります。

設置時のご注意

- ぐらついた台の上や不安定な場所、振動する場所、ほこりの多い所、直射日光が当たる場所、湿度が高い所、湿気の多い所、風通しの悪い場所、極端に寒い所などには、本機を設置しないでください。
- 特殊な塗装、ワックス、油脂、溶剤などが塗られている場所に、本機およびスピーカーを設置すると、変色、染みなどが残ることがあります。
- 部屋の暖房を入れた直後など、内部のレンズに水滴がつくことがあります（結露）。正常に動作しないばかりでなく、ディスクや部品を傷めることがあるので、本機を使わないときは、ディスクを取り出してください。結露が生じたときは、ディスクを取り出して、電源を入れたまま約1時間放置し、再び電源を入れ直してください。もし何時間たっても正常に動作しないときは、ソニーの相談窓口にご相談ください。

使用時の放熱について

- 使用中、本体の温度が上昇することがありますが、故障ではありません。
- 大音量で鳴らし続けると、本体キャビネットの天板や側面、底面、通風孔はかなり熱くなります。このようなときは、火傷などのけがの原因となるため、キャビネットなどに触れないでください。
- 温度上昇による故障の原因となるため、通風孔をふさがないでください。

テレビの色むらについて

本機のスピーカーは防磁型ではありません。そのため、本機のスピーカーをテレビのそばで使うと、テレビ画面に色むらが起こります。テレビから離してお使いください。色むらが起きたら、いったんテレビの電源を切り、15 ～ 30分後に再び電源を入れてください。それでも色むらが残る場合は、スピーカーをさらにテレビから離してください。

お手入れのしかた

キャビネットやパネル面の汚れは、中性洗剤溶液を少し含ませた柔らかい布などで拭いてください。シンナー、ベンジン、アルコールなどは表面を傷めるので、使わないでください。

故障かな？と思ったら

本機を使用中にトラブルが発生した場合は、ソニーの相談窓口にご相談になる前に、もう一度下記の流れに従ってチェックしてください。メッセージ一覧（48ページ）も合わせてご覧ください。メッセージなどが表示されている場合は、書きとめておくことをおすすめします。

手順1　本書で調べる

この「故障かな？と思ったら」をチェックし、該当する項目を調べる。
本書の手順の中にも、様々な情報があります。該当する項目を調べてください。

手順2　「サポート・お問い合わせ」のホームページで調べる

http://www.sony.co.jp/systemstereo-support/で調べる。
最新のサポート情報や、よくあるお問い合わせとその回答を掲載しています。

手順3　それでもトラブルが解決しないときは

ソニーの相談窓口（裏表紙）またはお買い上げ店にご相談ください。

ご相談になるときは次のことをお知らせください。

- 型名：CMT-S10
- 故障の状態：できるだけ詳しく
- 故障したときに再生していた音源（ディスクや“ウォークマン”など）：
- 購入年月日：
- お買い上げ店：

「PROTECT」または「OVER CURRENT」が表示されているときは

すぐに電源コードを抜いてください。「PROTECT」または「OVER CURRENT」が消えたら以下の項目を確認してください。
- スピーカーコードがショートしていませんか？
- 本機の通風孔をふさいでいませんか？
- WM-PORTコネクター 9 がショートしていませんか？
- 交流100V以外のコンセントに接続していませんか？

異常がなければ、再度電源コードをコンセントにつなぎ、電源を入れてください。それでもトラブルが解決しないときは、ソニーの相談窓口（裏表紙）またはお買い上げ店にご相談ください。

共通

電源が入らない。
- 電源コードがコンセントにしっかり差し込まれていますか？

気がつくと表示が消え、スタンバイモードになっている。
- 本機のオートスタンバイ機能によって、無操作または無音の状態が30分経過すると自動的にスタンバイモードに移行します。詳しくは、「オートスタンバイ機能について」をご覧ください（18ページ）。

時計設定や再生タイマーの操作が突然キャンセルされる。
- 無操作の時間が約1分経過すると、時計設定と再生タイマーの操作は自動的にキャンセルされます。始めから操作をやり直してください。

音が出ない。
- スピーカーコードを正しく接続していますか？
- 付属のスピーカーを使っていますか？
- 風通しの悪い場所に本機を設置したり、本機の通風孔をふさいでいませんか？
- 一時的にラジオ局が放送を中止している場合があります。

左右の音のバランスが悪い、または逆転している。
- スピーカーをできるだけ左右対称の位置に設置してください。
- 付属のスピーカーを接続してください。

ブーンという音がする、ノイズがひどい。
- テレビやビデオなどのノイズの原因になりやすい機器から本機を離して設置してください。
- 電源コードを別のコンセントに接続してみてください。
- 別売りのノイズフィルターの電源コードへの装着をおすすめします。ノイズが低減できる場合があります。

次のページにつづく

リモコンで操作できない。

- リモコンと本体の間の障害物を取り除き、本体を蛍光灯から離して設置してください。
- リモコンを本体のリモコン受光部6に向けてください。
- リモコンを本体に近づけて操作してください。
- リモコンの電池が消耗している可能性があります。新しい電池と交換してください。

CD/MP3ディスク

音飛びする、再生が始まらない。

- ディスクが汚れている、またはディスクに傷がついている。汚れの場合は、拭き取ってください。
- 振動のない場所（安定した台の上など）に本機を設置してください。
- スピーカーを本機から離したり、設置位置を変えてみてください。音量によっては、スピーカーの振動が音飛びの原因となることがあります。

再生が1曲目から始まらない。

- シャッフル再生、またはプログラム再生になっていないか確認してください。停止中に再生モードボタン24を繰り返し押すと、表示窓の「PGM」または「SHUF」が消え、ノーマル再生に戻すことができます。

再生が始まるまでに時間がかかる。

- 次のような場合、ディスクの再生が始まるまでにしばらく時間がかかることがあります。
  - –ディスク上のファイル構造が極端に複雑になっている。
  - –マルチセッション形式で記録したディスク
  - –「ファイナライズ処理」が行われていないディスク（書き込み済みのCD-RやCD-RWで、さらに書き込みが可能な状態のディスク）
  - –フォルダ数が多いディスク

“ウォークマン”

“ウォークマン”が充電されない。

- 本機の電源を切っているときは、“ウォークマン”は充電されません。

“ウォークマン”に録音できない

- 「NO SUPPORT」と表示されるときは、お使いの“ウォークマン”が本機での録音に対応していません。23ページまたは下記ホームページの機種別サポートで対応機種を確認してください。
  http://www.sony.co.jp/systemstereo-support/

録音が始まらない。

- 次のような原因が考えられます。
  - –“ウォークマン”に空き容量がない。
  - –録音可能なファイルやフォルダ数が上限に達している。

録音が完了前に停止してしまう。

- ファイルやフォルダ数が上限に達した。
- 本機の電源と“ウォークマン”の電源を入れ直してから録音をやり直してください。
- “ウォークマン”の空き容量がなくなった。

録音に失敗する。

- 対応機種以外の"ウォークマン"を使っている。23ページまたは下記ホームページの機種別サポートで対応機種を確認してください。
http://www.sony.co.jp/systemstereo-support/
- 本機の電源と"ウォークマン"の電源を入れ直してから録音をやり直してください。
- 録音中に、本機から"ウォークマン"をはずした、または"ウォークマン"の電源を「切」にした。録音中にこのような操作を行うと、曲の途中まで録音された不完全なMP3ファイルが"ウォークマン"に残ってしまいます。不完全に録音されたMP3ファイルを"ウォークマン"から削除し(31ページ)、録音をやり直してください。問題解決にあたっては、"ウォークマン"の取扱説明書も合わせてご覧ください。それでも問題が解決しない場合は、"ウォークマン"の故障の可能性があります。お買い上げ店またはソニーの相談窓口にご相談ください。
- "ウォークマン"への録音や消去を多く繰り返すと、"ウォークマン"内部のファイル構造の断片化によって、録音動作に必要な連続した空き容量が確保できなくなり、録音に失敗することがあります。このような場合には、"ウォークマン"の不要データを削除するなどして空き容量を確保してください。詳しくは、"ウォークマン"の取扱説明書をご覧ください。それでも問題が解決しない場合は、ソニーの相談窓口にご相談ください。

"ウォークマン"からファイルやフォルダを削除できない。

- 「NO SUPPORT」と表示されるときは、お使いの"ウォークマン"が本機での削除に対応していません。23ページまたは下記ホームページの機種別サポートで対応機種を確認してください。
http://www.sony.co.jp/systemstereo-support/
対応機種以外の"ウォークマン"を使っている場合は、パソコン上で削除してください。詳しくは、"ウォークマン"の取扱説明書をご覧ください。
- 削除中に、本機から"ウォークマン"をはずした、または"ウォークマン"の電源を「切」にした。削除中にこのような操作を行うと、正常に削除が行われません。削除をやり直してください。問題解決にあたっては、"ウォークマン"の取扱説明書も合わせてご覧ください。それでも問題が解決しない場合は、"ウォークマン"の故障の可能性があります。お買い上げ店またはソニーの相談窓口にご相談ください。

次のページにつづく

"ウォークマン"が正常に動作しない。

- 対応機種以外の"ウォークマン"を使うと、次のような問題が発生するおそれがあります。23ページまたは下記ホームページの機種別サポートで対応機種を確認してください。
http://www.sony.co.jp/systemstereo-support/
  - "ウォークマン"が本機に認識されない。
  - 曲名やフォルダ名(アルバム名)が表示窓に表示されない。
  - 曲が再生されない。
  - 音飛びする。
  - ノイズが混じる。
  - 音が歪む。
  - 録音が途中で止まる。

音が出ない。

- "ウォークマン"が本機にしっかり挿し込まれていますか？
本機の電源を切り、"ウォークマン"を接続し直してください。

ノイズ・音飛びが発生する、音が歪む。

- 本機の電源と"ウォークマン"の電源を入れ直してから、"ウォークマン"を接続し直してください。
- 音源そのものにノイズや歪みがないか確認してください。ノイズは録音の過程で混入する場合もあります。このようなときは、録音をやり直してください。
- 音量が大きすぎる。音量を下げて調節してください。
- "ウォークマン"のサウンドモードはノーマル(フラット)でお使いください。ノーマルモード以外の設定で本機で使用すると、音の歪みやノイズの原因となることがあります。

曲名やフォルダ名(アルバム名)が正しく表示されない。

- 録音・転送した音楽データが破損している可能性があります。本機で録音した場合は、録音をし直してください。パソコンを使って"ウォークマン"に曲を転送したデータについては、転送をやり直してください。パソコンからの曲の転送のしかたについては、"ウォークマン"の取扱説明書をご覧ください。
- 本機で表示できる文字は、アルファベットと数字のみです。表示できない文字は、アンダースコア(_)が表示されます。

"ウォークマン"が認識されない。

- 本機の電源と"ウォークマン"の電源を入れ直してから、"ウォークマン"を接続し直してください。
- 対応機種以外の"ウォークマン"を使っている。23ページまたは下記ホームページの機種別サポートで対応機種を確認してください。
http://www.sony.co.jp/systemstereo-support/
- "ウォークマン"が正常に動作していない可能性があります。"ウォークマン"の取扱説明書をご覧のうえ、問題が解決しない場合には、ソニーの相談窓口にご相談ください。

再生が始まらない。

- “ウォークマン”のホームメニューで「ミュージック」や「ポッドキャスト」など、ライブラリを選択して曲を再生し、停止状態にしてください。それから本機に接続し、►ボタン（本体では►❚❚ボタン）8を押してください。
- 本機の電源と“ウォークマン”の電源を入れ直してから、“ウォークマン”を接続し直してください。
- 対応機種以外の“ウォークマン”を使っている。23ページまたは下記ホームページの機種別サポートで対応機種を確認してください。
  http://www.sony.co.jp/systemstereo-support/
- 再生を開始しているか確認してください。開始していない場合は、►ボタン（本体では►❚❚ボタン）8を押して曲の再生を開始してください。

再生が1曲目から始まらない。

- “ウォークマン”の再生モードがシャッフルなどノーマル再生以外のモードにセットされていないか確認してください。“ウォークマン”の再生モードについては、“ウォークマン”の取扱説明書をご覧ください。

ラジオ

雑音が入る（「TUNED」や「ST」が点滅する）、または放送が受信できない。

- アンテナを正しく接続してください。
- 受信状態のよい場所や方向を探し、アンテナを設置し直してください。
- アンテナを本体やスピーカーコード、他のAV機器から離してください。
- 本機の近くにある電気器具の電源を切ってください。

複数の放送局が同時に聞こえる場合。

- アンテナの場所や方向を調整してアンテナを設置し直してください。
- アンテナを（コードクリップなどを使って）束ね、長さを調整してください。

ラジオの受信感度を改善するには

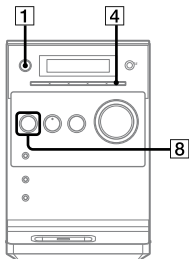
パワーマネージメント機能をオフにすることで、ラジオの受信感度を改善することができます。
本機は、お買い上げ時の状態では、CDプレーヤーへの給電を管理するパワーマネージメント機能がオンに設定されています。
パワーマネージメント機能は、本体のボタンを使ってオフにします。

1. **ファンクション +/–ボタン8を繰り返し押して、CDファンクションを選ぶ。**
2. **I/⏻ボタン1を押して、電源を切る。**
3. **「STANDBY」の点滅が止まったら、表示切換ボタン22を押して時計を表示させ、本体の■ボタン8を押しながら本体のI/⏻ボタン1を押す。**
   「CD POWER OFF」が表示されます。
   パワーマネージメント機能をオフにすると、ラジオの受信感度が改善しますが、ディスク読み込みに時間が長くかかることがあります。その場合には、パワーマネージメント

次のページにつづく

機能をオンに戻してください。
パワーマネージメント機能がオフの状態で手順1 ～ 3を行うと、「CD POWER ON」が表示され、パワーマネージメント機能がオンになります。

お買い上げ時の状態にリセットするには

「故障かな？と思ったら」の該当項目をチェックしても正常に動作しない場合は、次の手順で本機をお買い上げ時の状態にリセットしてください。
本体のボタンを使ってリセットを行います。

1 電源コードをコンセントから抜き、再度接続して、電源を入れる。

2 ファンクションボタン8と曲削除ボタン4を押しながら、I/⏻ボタン1を押す。
「RESET」が表示されます。
ラジオ局のプリセット設定や時計、タイマーなどの設定が、お買い上げ時の状態に戻ります。リセットを行ってもまだ正常に動作しない場合は、ソニーの相談窓口にご相談ください。

メッセージ一覧

本機の使用中に、次のようなメッセージが表示、または点滅することがあります。

COMPLETE

- FM/AM局のプリセット登録が正常に完了した。
- “ウォークマン”の曲、フォルダの削除が完了した。

DEVICE ERROR

本機がサポートしていないデバイスを接続している。

DEVICE FULL

“ウォークマン”の空き容量がない。

ERASE ERROR

“ウォークマン”の曲やフォルダ（アルバム）の削除に失敗した。

FATAL ERROR

曲の録音中や削除中に“ウォークマン”を取りはずした。

FOLDER FULL

録音可能なフォルダ数が上限に達している。

FULL

プログラム登録中に26曲目を登録しようとした。

NO DISC

ディスクが入っていない、または本機では再生できないディスクをセットした。

NO STEP

登録していたプログラムをすべて消去した。

NO SUPPORT

お使いの“ウォークマン”が、本機での録音、本機での曲やフォルダの削除に対応していない。

NO TRACK

“ウォークマン”に削除可能な曲がない。

NOT USED

使用できないボタンを押した。

OVER

CDファンクションで、再生または一時停止中に▶▶ボタン2を押し続け、ディスクの最後まで達した。

OVER CURRENT

異常を検出した。

PROTECT

異常を検出した。

PUSH STOP

再生中に再生モードボタン24を押した。

READING

ディスクの情報を読み込んでいる。このとき、いくつかのボタンは操作できなくなります。

REC ERROR

録音を開始していない、録音が正常に行われていない（44、45ページ）。

TIME NG

再生タイマーの設定で、開始時刻と終了時刻を同じに設定した。

TRACK FULL

録音可能なファイル数が上限に達している。

保証書とアフターサービス

本機は日本国内専用です。電源電圧や放送規格の異なる海外ではお使いになれません。

保証書

- この製品には保証書が添付されていますので、お買い上げの際、お買い上げ店でお受け取りください。
- 所定事項の記入および記載内容をお確かめのうえ、大切に保存してください。
- 保証期間は、お買い上げ日より1年間です。

アフターサービス

調子が悪いときはまずチェックを

この説明書をもう1度ご覧になってお調べください。

それでも具合の悪いときはサービスへ

ソニーの相談窓口やお買い上げ店、または添付の「ソニーご相談窓口のご案内」にあるお近くのソニーサービス窓口にご相談ください。

保証期間中の修理は

保証書の記載内容に基づいて修理させていただきます。詳しくは保証書をご覧ください。

次のページにつづく

保証期間経過後の修理は

修理によって機能が維持できる場合は、ご要望により有料修理させていただきます。

部品の保有期間について

当社ではマイクロハイファイコンポーネントシステムの補修用性能部品（製品の機能を維持するために必要な部品）を、製造打ち切り後8年間保有しています。

部品の交換について

この製品は、修理の際に交換した部品を再生、再利用する場合があります。その際、交換した部品は回収させていただきます。

主な仕様

本体（HCD-S10）

アンプ部

実用最大出力

5W＋5W (4Ω、JEITA*)

入・出力端子

外部入力端子

ステレオミニジャック550mV（50kΩ）

🎧（ヘッドホン）端子

ステレオミニジャック8Ω以上

ウォークマン接続端子（WM-PORT）

WM-PORT搭載“ウォークマン”接続用、DC 5V, 500mA

CDプレーヤー部

形式

コンパクトディスクデジタルオーディオシステム

レーザーの仕様

放射時間：連続
レーザー出力*：44.6 μW未満
* この出力値は、7mmの開口部にて光学ピックアップブロックの対物レンズ面より200mmの距離で測定したものです。

周波数特性

20Hz ～ 20kHz

S/N比

90dB以上

ダイナミックレンジ

90dB以上

チューナー部

回路方式

FM/AMチューナー、スーパーヘテロダイン方式

受信周波数

FM：76.0 ～ 90.0MHz（100kHzステップ）
AM：531 ～ 1,602kHz（9kHzステップ）

アンテナ端子

FMアンテナ、AMループアンテナ一体型

スピーカー（SS-CS10BまたはSS-CS10M）

形式

フルレンジ／ 8cmコーン型

定格インピーダンス

4Ω

最大外形寸法（幅×高さ×奥行き）

約148×240×127mm

質量

約1.3kg（1台）

その他

電源

AC100V、50/60Hz

消費電力

29W（通常動作時（JEITA*））

最大外形寸法（幅×高さ×奥行き、最大突起部含む、スピーカー除く）

約158×240×251.5mm

質量（スピーカー除く）

約2.2kg

付属品

リモートコマンダー（RM-AMU128）（1）／単三形（R6）乾電池（2）／ FM・AMアンテナ（1）／ "ウォークマン"用アタッチメント（2）／取扱説明書（本書）（1）／ソニーご相談窓口のご案内（1）／保証書（1）／ユーザー登録カード（1）

仕様および外観は、改良のため予告なく変更することがありますが、ご了承ください。

* JEITA（電子情報技術産業協会）規格による測定値です。

- 待機時消費電力：0.5W
- プリント配線板にハロゲン系難燃剤を使用していません。

使用上のご注意・主な仕様

よくあるお問い合わせ、窓口受付時間などは
ホームページをご活用ください。 **http://www.sony.co.jp/support**

ソニー株式会社 〒108-0075 東京都港区港南1-7-1

 Printed in China

4-287-655-**03**(1)